

## オーペン カレッジ

2021年9月28日に常滑港にクルーズ客船にっぽん丸が初寄港した。愛知県は2018年から中部国際空港エリアを「MICEを核とした国際観光都市」とする取組の一環として常滑港へのクルーズ客船の誘致に取り組み、関係者が協力して知多半島の観光資源の掘り起しや磨き上げを行い、船社にアピールしたことで初寄港が実現した。

### 常滑港へ「にっぽん丸」初寄港

変した。その後は感染状況の推移を見ながら徐々に運航が再開されたが、緊急事態宣言が発令されたことや船内での感染者の発生で再度の運航の停止に追い込まれ、以降も寄港地の受け入れ拒否や催行最少人数に達しないといった理由から運航の停止と再開が繰り返された。

このような状況の中で、愛知県と常滑市は常滑港への「にっぽん丸」の受け入れを決断し、初寄港が実現した。クルーズ客船の運航に関しては業界団体による新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインが定められており、今回の運航もそれに従って、乗船前と乗船時の2回のPCR検査、船内の換気、接触の制限、消毒等

期待できる。

## コロナ禍でのショートクルーズ

### による市場の再興

きたが、2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症の拡大でクルーズ客船の運航は停止し状況は一



水野 英雄  
山女学園大学 准教授  
現代マネジメント学部

の感染防止対策、寄港地における地元住民との接触を極力避ける「バブル方式」での観光により実施された。常滑港への寄港は横浜港発着の2泊3日のショートクルーズであった。船社としては長期のクルーズの方が効率的であり望ましいが、新型コロナウイルス感染症のために最大でも3泊4日という制約が設けられたことでショートクルーズが主流となっている。常滑

港はクルーズ客船の発着港である横浜港や神戸港から1泊の距離であり、ショートクルーズが増えることで同様に1泊の圏内である名古屋港、三河(蒲郡)港、豊橋港等と共にニーズは増え、清水港や四日市港と合わせて寄港誘致を行うことで、さらなる寄港の促進が期待できる。

長期の休みがとりにくいことからクルーズ客船は定年退職後の高齢者が主な顧客であったが、ショートクルーズが増加することで新たなニーズを創造し、顧客を広げることが市場の再興につながる。

みずのひでお 国際経済学、貿易政策、経済政策。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。